

第 12 回:新しい試み

教場長 田中仙融

新年を迎え、新たな気持ちで茶道と向き合おうと思われた方がたくさんいらっしゃることを望みます。

このコーナーで「素敵な茶人をめざしましょう」とコラムを書いております。なかなか文章だけであらわすのは難しいと、今回、護国寺の春の大茶会で、みなさんと一緒に茶会での素敵な茶人とはどういった人かしらということを考えてみたいと思い、「鑑賞席」と題して、圓成庵でみなさまをお迎えすることにいたしました。

茶会で茶席に入るといことは、席主の思い入れをその道具や設えを通して受け止めるということだと、どのくらいの方が理解してくださっているのでしょうか。抹茶と菓子も、もちろんそのもてなしの中に入っているのですが、そのひと時を皆さんと共に味わおうと心がけているのでしょうか。

道具の取り合わせを、どこのどなたの作品ということだけに主眼をおかず、席主が使われた心持を伺おうと思いませんか。掛軸も読めないときらめずに、じっと拝見、賞玩するという気持ちでご覧になっていますか？席に入って正客座に座らないようにと何も拝見せずに席を取るのではなく、視野の中に納めながらも、皆さんと一緒に目に立候わぬように振る舞うということを考えてみてはいかがでしょうか。

抹茶は差し上げられませんが、茶席の空間を道具組とわたくしと共に過ごして、素敵な茶人を見出してみませんか。

平成 27 年 2 月発行 会報「えんじゅ 82 号」掲載